

Central Daily Market Report

2019年10月31日(木)

セントラル短資株式会社 総合企画部

●資金需給

単位：億円	2019年10月31日		2019年11月1日		2019年11月5日	
	需給速報		需給予想		当社予想	
銀行券	▲ 1,200		▲ 800		1,000	
財政	▲ 4,400		▲ 28,200		▲ 9,000	
資金過不足	▲ 5,600		▲ 29,000		▲ 8,000	
金融調節	スタート	エンド	スタート	エンド	スタート	エンド
貸出						
全店共通						▲ 3,600
国債買現						
国債売現						
国庫短期証買入						
国債買入	1,900					
CP等買入	2,500	▲ 1,300				
貸出支援基金(成)						
貸出支援基金(貸)						
被災地支援						
社債等買入						
E T F 買入	200					
国債補完供給		100				
当預増減	▲ 2,200		▲ 29,000		▲ 11,600	
当座預金残高	4,106,100		4,077,100		4,065,500	
準備預金残高	3,563,800					
積み終了先	3,563,000		11月1日以降の残り所要積立額		積数 4,100	
超過準備	3,563,000		1日平均		300	
非準備預金先	542,300					
積み期間(10/16~11/15)の所要準備額					3,193,600	
準備預金進捗率	実績	99.87%	日数	51.61%		

●2019年10月31日の市場動向

<インターバンク市場>

本日の無担O/N物は、昨日までのレート低下基調に加え、月末要因が重なったことで各業態の資金調達需要が弱まり、一段と低いレートでの取引となった。

立ち上がりは邦銀・証券業態の調達を中心に▲0.035~▲0.02%の出会い。一巡後は、ビッドが減少し▲0.05~▲0.03%のレンジで出会いとなった。ターム物は、1~2W物のショートタームで引き合いが散見された。

本日の日銀金融政策決定会合では、フォワードガイダンスの修正と金融市場調節方針の現状維持が決定された。

<レポ市場>

GC T/N(11/1-11/5)は、▲0.065~▲0.050%程度での出会い。SCはロールオーバーを中心に幅広い銘柄で取引が見られた。個別銘柄では2Y402~405、10Y336~356、5Y136~141、20Y167~170、30Y59~64、40Y9~12等にビッドの出入りが多く見られた。

<短国市場>

現先レート(T/N)は、横ばい圏で推移した。アウトライト市場は、動意なく閑散な中、3M物が▲0.195%で出合った。

<CP市場>

現先レートは横ばい圏で推移した。発行市場は、鉄鋼業態でまとまった量の調達が行われ、償還総額1,200億円程度に対し、発行総額は1,700億円程度と発行超となった。発行レートについては、発行残高が積み上がっている物で僅かに上昇したが、引続き0%近辺の狭いレンジで推移している。

●短期金融市場関連指標

2019/10/31	無担(速報)			有担(速報)			短国 売買参考統計値	東京 レポレート 平均値	JGB新発10年債		日経平均株価		ドル/円	
	単位：%	最低	最高	平均	最低	最高			平均	直近値	前日比	15時時点	前日比	為替(9時)
O/N	▲ 0.087	0.001	▲ 0.030				-	▲ 0.064	▲ 0.145	▲ 0.020	22,927.04	83.92	108.79-81	108.60-61
T/N							-	▲ 0.060						
S/N							-	-						
1W							-	▲ 0.062						
2W			▲ 0.015				-	▲ 0.064						
3W	▲ 0.005	0.001	▲ 0.001				-	▲ 0.072						
1M			▲ 0.012				-	▲ 0.080						
3M							▲ 0.198	▲ 0.123						
6M							▲ 0.230	▲ 0.170						
1Y							▲ 0.220	▲ 0.192						
									日付	10/24	10/25	10/28	10/29	10/30
									日銀当預残	4,091,300	4,086,700	4,102,400	4,109,100	4,108,300
									準備預金残	3,564,100	3,560,500	3,588,400	3,578,700	3,572,500
									マネタリーベース	5,213,600	5,209,400	5,224,700	5,231,700	5,231,300
									無担O/N加重平均	▲0.013%	▲0.014%	▲0.016%	▲0.021%	▲0.024%
									コール市場残高	94,039	96,728	94,647	96,753	97,659
									うち無担	74,946	77,374	75,521	77,200	77,828
									うちO/N	50,816	53,524	50,486	51,675	53,053
									うち有担	19,093	19,354	19,126	19,553	19,831

●入札結果

本日は財務省による国債等の入札は実施されませんでした。

●オペ結果

種類	オファー額 (億円・ 百万ドル)	スタート日	エンド日	貸付 利率	応札総額 (億円・ 百万ドル)	落札総額 (億円・ 百万ドル)	按分レート ・利回較差 ・価格較差	全取レート ・利回較差 ・価格較差	平均落札レート ・利回較差 ・価格較差	按分 比率
国債補完供給(国債売現先)・即日(午前オファー分)		2019/10/31	2019/11/1	▲0.350	35	35		▲0.350	▲0.350	

●2019年11月1日の予定

*9月の完全失業率(市場予想：2.3%)	*米国9月の建設支出	*国庫短期証券(867回)入札
*9月の有効求人倍率(市場予想：1.59倍)	*米国10月の雇用統計	(3ヶ月、43,000億円、11/5発行)
	*米国10月のISM製造業景況指数	

●日銀金融政策決定会合・結果

- 新たな政策金利のフォワードガイダンスを決定。
日本銀行は、政策金利については、「物価安定の目標」に向けたモメンタムが損なわれる惧れに注意が必要な間、現在の長短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定している。
- 金融市場調節方針および資産買入れ方針については、以下のとおり決定。
(1)長短金利操作(イールドカーブ・コントロール)(賛成7反対2)
短期金利：日本銀行当座預金のうち政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用する。
長期金利：10年物国債金利がゼロ%程度で推移するよう、長期国債の買入れを行う。その際、金利は、経済・物価情勢等に応じて上下にある程度変動しうるものとし(金利が急速に上昇する場合には、迅速かつ適切に国債買入れを実施する)、買入れ額については、保有残高の増加額年間約80兆円をめどとしつつ、弾力的な買入れを実施する。
(2)資産買入れ方針(全員一致)(長期国債以外の資産の買入れについて)
①ETFおよびJ-REITについて、保有残高が、それぞれ年間約6兆円、年間約900億円に相当するペースで増加するよう買入れを行う。その際、資産価格のプレミアムへの動きかけを適切に行う観点から、市場の状況に応じて、買入れ額は上下に変動しうるものとする。
②CP等、社債等について、それぞれ約2.2兆円、約3.2兆円の残高を維持する。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長(登金)第526号 日本証券業協会加入